

北総NOW

印西市議会議員まつお栄子活動報告

2008年（平成20年）7月発行

発行 まつお栄子

〒270-1359 印西市木戸2-10-9

TEL 0476-46-7998 FAX 0476-46-8102

Eメール mytime@rurbanet.ne.jp

ホームページ mytime-e.net/now 北総NOW⇒検索



20年6月議会の報告 まつお栄子の一般質問

今回は、市民要望の高い●病院問題の具体的な計画のほか、22年春の開校に向けて建設が始まる●県立高校をよりよい高校に育てる体制、また入居10数年を経て未だ実現していない●牧の原駅圏の郵便局問題等について一般質問を行いました。

また都市化に伴い、幹線道路沿いに最近、様々な看板が増えていますが、青少年に有害な看板は早めに規制を取り組まないとあっという間に街中に広がってしまいます。こうした●看板の規制対策にも取り組みました。主な内容は下記の通りです。詳細は議会会議録等をご参照下さい。

1. つよく安心なまちづくり

(1) 病院誘致について

くまつお> 4月18日、千葉県保健医療計画の変更が発表され、印旛保健医療圏は山武地域と分かれ386床の不足病床数が認められた。このことは、これまで印旛山武医療圏の分離と病床数不足を訴え、県に働きかけを続けてきた市及び関係各位の努力の賜物と敬意を表したい。今後は具体的な病院建設計画の進行が待たれる。医療法人正徳会が計画している病院は、内科、外科、整形外科、リハビリテーション科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科を診療科目として、救急20床、一般137床、回復期リハビリ93床の計250床の病院と聞いている。今後必要な手続。計画内容に変更はないか。用地・建設スケジュール。循環型地域医療連携システムにおける位置付けは。

く健康福祉部長> 今後、地元市町村及び医師会の意見書を付した病院開設計画書の提出等を経て千葉県医療審議会に諮り、病院開設予定者に病床配分がなされる予定。現在のところ計画内容の変更はない。用地は牧の原駅圏の21住区内。順調にいけば平成21・22年度に病院建設、23年度開設の予定。循環型地域医療連携システムについて、正徳会の病院は、脳卒中では93床の回復期リハビリ病棟、救急医療では救急病床20床で入院に対応した2次救急医療機関、災害医療では「医薬品備蓄センター」の設置等を計画している。

くまつお> 資金計画は順調か。昨日の答弁で院長には赤坂山王クリニックの梅田悦生先生が予定されていることであるが、その他の医師・看護師の確保の見通し、また市内各域からのアクセスは。く健康福祉部長> 資金はプロジェクトファイナンスで調達。医師・看護師は東京女子医科大学との連携で鋭意準備に当たっている。交通アクセスは、木下・小林駅圏からは市道00-031号線、中央駅圏からは国道464号線でのアクセスが図られる。 (裏面に続く)

つよく優しいまちづくり

松山下公園 総合体育館



◆松山下公園総合体育館建設工事の起工式が6月25日開かれ、いよいよ建設が開始されました。

◆松山下公園は印西市の運動公園として20年以上前から、陸上競技場、野球場、テニスコートなどが順次整備されてきました。運動公園としての整備の中で国の補助(1/2)もつき、建設されることになります。

◆体育館の建設工事は、3年前、位置や規模の問題で、一度予算が否決されたことがあります。現在の市には贅沢すぎる施設であるとか、建設場所をニュータウン内に、などの理由でした。

◆印西市は確かに、高度経済成長時に基盤整備を終えた近隣諸都市と違い、経済が低迷する今の時代にまだまだまちづくりが必要なまちです。社会経済環境が大きく変化した中、建設事業等は必要性を十分吟味し市の財政に負担がかからないよう、よほど慎重に、計画的に進めていかなくてはなりません。

◆印西市は今、財政を抑えつつ、一方で市民福祉の向上を図るという難しい時代にまちづくりを進めているわけですが、よかった点を一つあげるとするなら、こういう時代だからこそ、一つひとつの事業にも、将来見通しをたてて非常に慎重にとりくんでいるということでしょう。

◆私は、市民の健康づくりやスポーツ活動の拠点として十分に使われ、スポーツのすそ野を広げるなら、元気な高齢者が増えている現在、総合体育館は必要な施設ではないかと考えています。あとは、市民が個人でも団体でも、気軽に利用できる運営体制の問題です。

◆場所については、運動公園としての整備の中で国の補助がつくのですから、松山下公園しかありません。他の場所なら、ほぼ全額を市が負担しなくてはなりません。

◆体育館はアリーナや多目的室、武道場、トレーニング室のほか、シャワー室などもあります。これまで多くの市民が、様々な試合や大会で船橋や柏、我孫子など遠くの体育館へ行っていたことを思えば、市内の体育館で様々なスポーツ大会を開き、多くのサークルや団体が気軽に参加できることは、スポーツの振興に大いに役立つのではないかと考えています。スポーツや健康づくりを通じて、市内各域の人々のコミュニケーションが深まるこども大切なことです。

◆何よりいいのは、市内に初めて本格的な避難所ができる。各地の大地震では、小学校の体育館が長期の避難所になり、お風呂はないわ、学校は始まるわで、みんな困っていましたね。

◆でも、災害時に避難所自体が被害を受けるのでは何にもなりません。その点、今回の総合体育館は、耐震偽装問題で建築確認審査が強化されて以来初の大規模公共施設ということで、念には念を入れた審査が行われたこと。せっかく建てるのですから少々のことではびくともしない、市民の万一の場合のよりどころになってほしいですね。

◆完成は22年3月の予定です。

くまつお> 県保健医療計画の資料によると、印旛保健医療圏では死産数及び周産期死亡数が全県平均より高くなっている。市は計画病院に産婦人科、小児科の設置を要望していくということであるが、ぜひ推進していただきたい。計画病院は「緊急出産に対応できる設備と体制を検討する」とのことであるが、どのような内容か。

<健康福祉部長> LBR室を用意し、東京女子医科大学八千代医療センターの総合周産期母子医療センターとの連携を図るということである。

くまつお> 印旛保健医療圏は691平方kmと広く、実際には印西市からはなかなか通えない広範囲の地域の医療施設も含めて想定されている。今後も市民が安心できる医療体制に向けて、さらに充実したシステムづくりが必要では。

<健康福祉部長> 印旛保健医療圏には回復期に対応できる医療施設がなく、また救急医療においても他の保健医療圏にかなり依存している地区もある。こうした機能の充実により、複数の医療機関が連携、協力し、使いやすく効果的な医療提供体制を整備していく必要があると考えている。

(2) 高校問題について

くまつお> 20年度・21年度の工事内容と着手時期。工事にあたっての安全対策。印旛高校では検討委員会を発足させることだが、みんなが行きたいと思えるよりよい高校づくりに向けて、検討委員会に市内各域の中学校や保護者代表を入れる考えはないか。

<市長> 本年度からすべての県立学校に開かれた学校づくり委員会を設置。印旛高校では、本年度の検討委員として広く印西市民からの人選を検討していると聞いている。

<企画財政部長> 本体工事は11月頃着手。20・21年度の2カ年で校舎及び屋内運動場を建設。22年4月開校予定。工事は464号を搬入路とし、日曜・祝日・夜間は行わない。

くまつお> 来春の受験生は2年生から新高校へ通うことになる。中央駅圏・牧の原駅圏から現在の印旛高校へ通う場合の通学体制を考えておかないと、来年度も受験生の増加は見込めない。

<企画財政部長> 路線バス、ふれあいバスを活用する。ふれあいバスについては随時見直しを進めます。

2. ひとに優しいまちづくり

(1) 好感度の高いまちづくりについて

① 来街者、新入居者にわかりやすい案内標識の設置

くまつお> 市内では昨年末からマンション等の住宅販売が続き、人口が1400人増加。新規入居者や物件を見に来る来街者の目線で市内を見ると、幹線道路の交差点での道路標識や住所表示、公共施設への案内標識がないなど、新入居者、来街者に対して親切な街という印象がもてない。道路標識や案内標識はどのような基準で設置しているか。

<都市建設部長> 主要な幹線道路や駅周辺道路等に適時に配置している。

くまつお> (今回の質問にあたって行った市内4駅圏の標識等設置状況の調査結果を例示)。

ニュータウン地区では街全体が新しく、地図にも新しい道路が載っていないなかったり、形状が変わったりしてわかりにくい。来街者が迷いながら走っていると事故のもとになる。また木下駅圏、小林駅圏では自然や伝統を生かした様々なイベント等も行われているが、他市町村からの来街者はもとより、ニュータウン地区などから広く市民が集うためにも、わかりやすい標示が必要。今後の対策、体制づくりは。

<都市建設部長> ご指摘の箇所を含め、関係機関と十分協議していく。

<市長> 市にも平岡自然公園等がわかりにくいという要望が来ているが、地域との約束もあり、難しい問題もある。

ただ、ご指摘通り、遠方から来たり入居したての方々にとって、わかりにくいところもあると認識した。早速検討をして、わかりやすい看板等の設置について前向きに行いたい。

② 青少年に有害な看板の規制対策

くまつお> 市内の幹線道路沿い等に最近多くの看板が目立つようになってきた。中でも国道464号の草深交差点付近に最近大きな看板ができる。赤地に大きく「美少女」などの文字が並んでいる。464号は中央駅圏と牧の原駅圏を結ぶメインの幹線道路。看板ができた時期や経緯について把握しているか。また、この看板は千葉県青少年健全育成条例、屋外広告物条例等、関係法令に抵触していないか。

<都市建設部長> 看板は確認している。県に確認したところ、千葉県青少年健全育成条例には該当しないとのことである。屋外広告物条例の許可申請及び建築基準法の確認申請の手続きはされていない。

くまつお> 今後の対策は。

<都市建設部長> 国道464号沿いの都市機構所有地の広告物は是正を開始。民有地は、屋外広告物条例、建築基準法による是正が必要な広告物も考えられ、まずは現状を把握し、場合によっては警察とも協議していきたい。

くまつお> こうした看板は一つできると次々に増える。464号の牧の原分署隣接地には22年春、新高校も開校予定で、中央駅圏からの生徒の通学路にもなる。県と市が一体となってよりよい高校づくりに取り組もうとしている中であり、早め早めにこうした看板の規制対策に取り組んでいくべき。規制が厳しい市には業者も進出しにくい。県内でも千葉市、市川市など10市では景観条例を制定し、屋外広告物条例との連携で看板等の規制を行っている。青少年の健全育成にも配慮した景観条例の制定等の対策を考えているか。

<都市建設部長> 景観条例については、他市町村の事例も参考にしながら、できる限り青少年への影響についても考慮し、検討していきたい。

(2) 印西牧の原駅圏の郵便局問題について

くまつお> 印西牧の原駅圏は平成6年3月街びらきが行われ、入居開始14年目。入居住民は2,696世帯、人口7,948人になる。駅圏では当初から郵便局設置の要望があるが、今現在も実現していない。これまでの経緯は。また地域の関係組織と話し合いを行っているか。

<都市建設部長> 新住事業者への誘致要望を行ってきたが、具体的な進展はない状況。印西郵便局に相談した際、現時点での郵便局の新設は難しいと思われるとの回答があつた経緯がある。

くまつお> 日本郵政は、今現在は国が100%株を保有する総務省管轄の特殊会社。また私が関係方面で話を聞いてきたところ、郵便局には、これまで地域ごとに郵便局長会等の組織があり、郵便局の設置などについても相互に連携し協力しあっているということである。牧の原駅圏は本塙村滝野地区も合わせると駅圏全体で約4,300世帯、1万3千人の入居者がおり、今後もさらに入居が見込まれる。まちびらきから10数年を経て、1万3千人規模の地域にまだ利便施設が整っていないという状況は、やはり異常である。当地域は千葉ニュータウン事業に伴い人口が急増している特殊な地域。高校問題、病院問題でも、当地域の特殊事情が理解され、高校の移転新設、保健医療圏の分離見直しにつながった。長年の住民要望の解決に向けて、地域の特殊事情を千葉ニュータウン事業者や郵便局長会、また総務省等関係方面に強く訴え、今こそ本格的に取り組む時期では。

<市長> ご指摘をふまえ郵便局の印旛地域のアドバイザーである成田市の吾妻郵便局長に、地域の強い要望があることをご理解いただき、本社サイドに郵便局設置の申し入れをしていただくよう強く要請したところである。今後も、機会あるごとに新住事業者、郵便局等の関係機関に対し十分な事情説明を行いながら、積極的な働きかけを行っていきたい。